

虚言行動に関する尺度開発—臨床心理学的視点からの検討—

本研究は、虚言を動機によって分類し、測定する尺度を開発することを目的として行った。さらに、完成した尺度のそれぞれの下位尺度と虚言行動を特徴とするクラスターB群のパーソナリティである自己愛性パーソナリティ、境界性パーソナリティ、反社会性パーソナリティとの関連を検討することを目的とした。

予備調査で、先行研を参考に独自に尺度を作成と項目の選定を行い、本調査では、予備調査で得られた結果をもとに項目の追加と削除を行った。その結果、「万能的コントロールの嘘」「関係配慮の嘘」「利己的な嘘」「能動的自己防衛の嘘」「過敏型自己愛的な嘘」の5因子を抽出し、 α 係数からその信頼性が確認され、「虚言行動における動機尺度」と命名した。次に、虚言行動を特徴とするクラスターB群のパーソナリティ傾向との関係性を検討するために、分散分析を行った。結果として、それぞれの虚言行動の動機の得点が高いことが直接、もしくは性別要因を介して、パーソナリティ傾向の得点の高さに影響を及ぼすことが示唆された。また、どのパーソナリティ傾向が虚言行動の動機をどの程度説明するか検討するために、重回帰分析を行った。その結果、それぞれの下位尺度を説明すると想定したパーソナリティ傾向が有意に各虚言動機因子を説明し、因子名の妥当性を確認され、それぞれのパーソナリティの違いによって嘘をつく際の動機に違いがあることが明らかとなった。